

한통련 뉴스레터

제19호

発行:在日韓国民民主統一連合 (韓統連)

〒110-0016 東京都台東区台東4丁目31-7-302 電話/FAX 03-4362-5284
メール chuo@korea-htr.org ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方はchuo@korea-htr.orgまでご連絡ください。(メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください)

정세 情勢

●米国は「新冷戦」軍事緊張をつくりだすな!



ジャカルタで演説するブリンケン国務長官

ブリンケン米国務長官は12月14日、訪問先のジャカルタで演説し、北東アジアから東南アジア、メコン川流域、太平洋島嶼国に至るまで「中国の攻撃的な行動」への懸念が広がっていると強調した。その上で、インド太平洋政策について、中国への対抗を念頭に「同盟国や友好国と連携し、外交、軍事、情報を組み合わせた戦略を採用する」と訴えた。ブリンケン氏は、バイデン大統領が数カ月以内に、東南アジア諸国連合(ASEAN)各国の首脳を米国に招待し、首脳会議を行う計画だと明らかにした。また、インド太平洋地域の同盟国である日

本、オーストラリア、韓国、フィリピン、タイを挙げ、関係深化を目指す方針を確認。韓米日や米日豪印による協力枠組み「Quad(クアッド)」など、同盟国同士を結び付ける多国間の連携も推進すると語った。

バイデン米政権の「開かれたインド太平洋戦略」に基づいた対中国包囲網の構築は、ロシアと朝鮮も標的としながら、「新冷戦」とも呼ぶべき軍事緊張状態をつくりだしている。ブリンケン国務長官が発言しているように、米国は、同盟国とパートナー国を総動員する対中国包囲網を、韓米同盟と日米同盟からなる韓米日3カ国軍事協力体制にQuadとAUKUS、NATOさらにはASEANを連携させて完成させようとしている。この間の民主主義サミット、G7外相会合、韓豪首脳会談などでは、そうした米国の意向が反映された。韓国政府は韓米同盟を盾にした米国の一方的な主張と押しつけに流されてはならない。中国との良好な関係をも維持する国益に沿った自主外交の展開が求められる正念場を迎えている。

●バイデン政権は朝鮮に制裁圧力を加えるな!

米国政府は12月10日、「世界人権の日」に合わせ、人権侵害や抑圧に関与したとして、朝鮮の李永吉国防相ら15個人・10団体を制裁対象に指定した。バイデン政権下で朝鮮高官に対する制裁は初めて。在米資産が凍結され、米国人との取引が禁止される。この措置に関し、統一部の李種珠報道官は13日の定例会見で「(政府は)朝鮮半島の状況を安定的に管理しながら、朝鮮半島における平和定着と南北関係の発展、そして北(※正しくは朝鮮)の人権の促進をバランスよく進展させるため、一貫して努力してきた」と述べた。その上で「今後もこうした方向で米国などの国際社会と協力し、南北間協力のきっかけをつくっていく」と伝えた。米国の制裁実施そのものについては「米国政府が自国の法律に基づいて取った措置に対し、統一部が論評するこ

とはない」と述べるにとどめた。また、国連総会本会議は16日、朝鮮の「人権侵害」を強く非難し、改善を求める決議案をコンセンサス方式(議場の総意)により投票なしで採択した。同種の決議採択は17年連続。韓国は2019年から共同提案国に名を連ねていないが、コンセンサス方式での採択には賛同した。

サラバン米大統領府国家安全保障補佐官が12月17日、米国外交協会の座談会に参加、「戦略的忍耐」を標榜したオバマ政権は「朝鮮の核問題」を放置し、トランプ政権は一括妥結を求めて推進したとした上で「本質的にわたしたちの政策の趣旨と目的は、オバマ政権とトランプ政権の間に位置しているが、朝鮮半島の完全な非核化という究極目標に向けて、段階的進展を成すために、外交的に関与する準

備ができている」と明らかにした。サリバン氏は「わたしたちは2018年シンガポール首脳会談で提示された基本事項に関して、進展を成すために努力する準備ができていると、直接的・公開的に継続して明らかにしている」としながら、朝鮮が呼応しないとボールを朝鮮側に投じた。

バイデン政権は朝鮮に対し「敵視していない」として、無条件対話を提案してきたが、人権問題を口

実とした制裁の継続や圧力は明らかに敵視行為である。サリバン補佐官の発言は「段階的進展」を強調したものの、敵視政策を平然と続けていては「段階的進展」へと進むどころか、最初の扉さえ開かないのは当然だ。「朝鮮が呼応しない」と責任転嫁するのは筋違いだ。

●米政府に戦時作戦統制権の無条件早期返還を求める



プ・スンチャン報道官による定例会見

国防部のプ・スンチャン報道官は12月14日の定例会見で、米国側が米軍主導の韓米連合軍が持つ有事作戦統制権の韓国軍への移管に向け、有事作戦統制権を将来的に行使することになる韓国軍主導の未来連合軍司令部の完全運用能力（FOC）検証を来年の夏に行うと表明したことについて、「韓米の軍事当局が緊密に協議している」と従来の立場を改めて示した。米国防総省のカービー報道官は13日の記者会見で、オースティン国防長官が韓国側とFOC検証を「来年の夏」に行った後、秋に再検証することで合意したと明らかにした。夏とは下半期の韓米合同指揮所演習期間を意味するとみられる。FOC検証は有事作戦統制権

の移管後、未来連合軍司令部の作戦統制権の行使能力を評価するための3段階の検証手続きのうち第2段階にあたる。徐旭国防部長官とオースティン氏は2日、ソウルで開かれた韓米定例安保協議（SCM）で、FOC検証を来年に実施することで合意。オースティン氏はSCM後の記者会見で、来年下半年の合同指揮所演習に合わせて行うと表明した。ただ、オースティン氏が文在寅大統領を表敬訪問した際、FOC検証の早期実施が議論され、両軍当局の協議が再び行われている。

有事作戦統制権の韓国軍への移管は、米側が主張するように運用能力検証を云々する必要はなく、時期を決めて無条件で返還すればすむ問題である。韓国側は可能な限り早く能力検証を求めることで、早期の返還を想定しているが、米側と意志一致しているとはいいがたい。また、能力検証が一方で韓米合同軍事演習を実施する理由のひとつとされていることを考慮すると、有事作戦統制権の無条件早期返還は、合同軍事演習を実施する必要性がない根拠を与えていくことにもつながる。

활동보고 活動報告

●韓青が結成60周年記念事業にむけた活動を各地で展開



東海地協で開催された秋期講習会

韓青はこの間、新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえながら、結成60周年事業に向けた活動を各地域で展開した。

東京本部では、韓統連神奈川本部の金承民事務局長（前韓青中央委員長）を講師に迎え、韓青史学習会を開催。韓統連神奈川本部主催の光復節集会や学習会にも東京本部のメンバーが積極的に参加し、韓統連との団結を強化していった。

東海地協では愛知県本部、三重県本部の定期大

会以降、愛知・三重共同での活動を精力的に展開。10月16日～17日に開催した東海秋期講習会では、20代の青年が中心となり活発な討論が行われた。今後も冬期キャンプなど、積極的に組織活動を展開していく予定。

関西地協では各地方本部の活動と並行し、地協単位での活動を展開。10月9日に関西地協主催によるBBQモイム（集い）を開催し、この間直接会えなかった仲間たちが結集。結束を高めた。日常的にはオンラインを活用し、幹部対象の学習会も継続して取り組んでいる。

韓成祐中央委員長は今年度を振り返り「結成60周年行事の開催は叶いませんでしたが、地域発信の活動を果敢に展開し、コロナ禍で離れた青年たちと再び結集することが出来ました。来年も地域単位で様々な活動を企画しているので、若き青年たちに期待と激励の言葉をかけていただければ幸いです」と今後の抱負を語った。

ドキュメンタリー映画『私はチョンサラムです（私は朝鮮人です）』が、12月9日から韓国各地で劇場公開されることになり、金哲民（キム・チョルミン）監督の招待を受けて、金昌五（キム・チャンオ）事務長が12月2日から11日まで韓国を訪問した。その報告記事を前号と今号の2回に分けて掲載。

「パンダのおかげで民主化・統一運動に参加することができた金昌五です」 —映画『私はチョンサラムです』観客との対話—

韓統連中央本部 事務長 金昌五

<映画上映会の後、それぞれの地域で約1時間にわたって「観客との対話」の時間がもたれた。私と観客との対話の主な内容について報告する>

●司会者：はじめに自己紹介をお願いします。

金昌五（以下「金」）：アンニョンハセヨ。上野動物園のパンダのおかげで民主化・統一運動に参加することになった金昌五です（笑い）。日本の大阪から来ました。お会いできてうれしいです。

●司会者：初めて映画を観た時の感想はどうでしたか？

金：私が初めてこの映画を観たのは、昨年10月、大阪での上映会でした。金哲民監督と初めて会ったのは2016年で、それ以来、何回となくカメラの前で話をしてきましたが、初めて映画を観るときにまず思ったことは、本当に私がこの映画に出ているのか（笑い）、出ているとしてどの程度出ているのか（笑い）、どんなふうに出ているのか、がとても心配でした（笑い）。ところがいざ映画が始まるや否やそんな考えはどこかに飛んでしまい、いつしか映画の世界に没頭していました。

●司会者：映画の中で特に印象的なシーンがありましたか？

金：京都朝鮮初級学校3年生の男の子が在特会と闘うために毎日鉛筆を削っていた話が一番衝撃的でした。私には孫が三人いるのですが、ちょうど一番上の孫が同じ年なのもあってとても胸が痛かったです。そして私が中学生の頃、地下鉄のトイレに「朝鮮帰れ！」という落書きがあって、それを見てとても怖かったのを思い出しました。「朝鮮帰れ！」と言われても韓国語も知らないし、韓国に知っている人は一人もいないし、そんなところに追放されたらどうして生きていけばいいんだろう、と思うとても怖かったです。でも、私の場合は地下鉄のトイレの落書きでした。今は昼間に学校の前でマイクを握って「朝鮮帰れ！」と叫んでいるわけです。子どもたちを守るためにこれからも一層頑張らなければならないと思いました。

●会場からの質問：18才の時から韓国の歴史や文化を学びだしたということでしたが、苦勞されたことはありませんでしたか？

金：大学1年生の時に韓青に参加して、初めて韓国語の勉強を始めました。「アーヤーオーヨー…（※아아어어とハングルの発音練習）」という初歩的発音から学んだのですが、韓国語には日本語にない発音がたくさんあり随分苦勞しました。一番難しかったのはリウルパッチム（※ハングルㄹが終音のときの発音）で、韓国語にリウルパッチムがなかったら良かったのと思いました（爆笑）。

●会場からの質問：今日もつけておられますが、映画の中で黄色いバッジをつけている姿が印象的でした。どういうお気持ちでつけているのでしょうか？

金：金大中政権、盧武鉉政権と民主政権が10年続きましたが、李明博政権、朴槿恵政権の下で独裁政治が復活しました。その独裁政治の最大の被害者がセウォル号事件の被害者と遺家族だと思います。その遺家族の長く困難な闘いがついにキャンドル革命につながりました。セウォル号事件の遺家族の皆さんに対する敬意と連帯して闘うという気持ちを込めて、いつも黄色いリボンのバッジをつけています。

●会場からの質問：日本の厳しい差別社会の中で、朝鮮人であることに誇りを持って生きるというのは大変なことかと思いますが、何がそうさせるのでしょうか？

金：私は「朝鮮人として生まれたことは恥ずかしい」といういわれのない劣等感を抱いて生きていました。それが祖国の歴史や文化を学ぶ中で、劣等感から解放され、誰であれ人間として生まれた限り人間としての



仁川上映会



ソウル上映会後の
「観客との対話」

尊厳を保障されなければならないと思うようになったのです。人が生きていくうえで自尊心、自尊感情はとても大切なものだと思います。その自尊感情が差別に立ち向かう原動力になっていると思います。

●会場からの質問：映画の中では、「韓国に来たくてたまらなかったのに来られなかった」と言っていましたけれども、いつ、どうして来られるようになったんですか？

金：私は韓国政府にパスポートの発給を拒否されていたために韓国に行くことができませんでしたが、韓国からはたくさんの方が日本に来られました。民主化運動をしている人、労働運動をしている人、平和運動をしている人など多くの人と日本で会いました。そしてその人たちは韓国に帰る前に必ず約束してくれました。「皆さんが韓国に来られるように努力します。次はソウルで会いましょう」。その約束を守るために多くの方が努力してくれた結果、ついにその約束が実現される日が来たのです。2003年9月19日に

海外民主人士帰国推進委員会の招待で初めて愛する祖国、大韓民国に来ることができました。今も忘れられません、その前日に推進委員会の執行委員長であった林鍾仁（イム・ジョンイン）弁護士から電話がありました。「準備はできた？」「ああ、できたよ。そっちはどう？」「うん、すべて準備できたよ」。そして最後に林弁護士が言った言葉。「明日、ソウルで会いましょう」。その瞬間涙が止まりませんでした。何十年もの間、交わってきた「次はソウルで会いましょう」という約束が実現する日が来たのです。私が祖国韓国に来ることができるようになったのは、その約束を実現するために努力してくれた多くの皆さんのおかげです。

●会場からの質問：映画を通して在日朝鮮人に対する差別の実態を知ることができました。差別をなくすために何をすればいいのでしょうか？

金：日本でも多くの在日同胞と多くの良心的な日本人が朝鮮学校に対する差別をなくすために頑張っています。しかし、私はその力だけでは日ごとに右傾化していく日本社会の朝鮮人差別をなくすことはできないと思っています。南と北、祖国の力が必要です。すでに2007年の第2回南北首脳会談で合意された10・4宣言の第8項目で「南と北は、たがいに力を合わせて海外同胞の権利と利益のために努力する」と明記しています。今、海外同胞の最も切迫した問題は日本における朝鮮学校に対する差別です。10・4宣言の合意に基づいて南北両政府に行動を起こすよう求めていくことが大切だと思います。

●会場からの質問：私たちは韓国にしながら統一問題をそれほど身近に感じられないのですが、在日同胞の皆さんは日本に住んでいながら祖国の問題や統一問題に熱心なのはなぜでしょうか？

金：私は韓青で歴史を学ぶようになって、ある時アボジ（父親）に聞いたことがあります。「歴史の教科書に写真も出ていたけど、アボジも植民地支配が終わった時、街頭に出て解放万歳！って叫んだの？」って。それに対してアボジは「日本が戦争に負けたのが悔しくて泣いた」というんです。それだけじゃなくて、少年特別航空隊に志願したというんです。幸いなことにアボジは色覚障害で不合格になったんですが、もしアボジが色覚障害でなければ神風特攻隊で死んでいたかもわからないんです。そうならないと、私はこの世に存在していません。この事実から見ても、在日同胞の運命は祖国の運命と深く結びついています。これを受動的に表現すれば、「祖国の運命が在日同胞の人生を左右する」と表現できますが、能動的に表現すれば「在日同胞の人生が祖国の運命を左右する」と表現できます。私は私たち一人一人の生き方が祖国の運命を左右するのだということを肝に銘じて生きていかなければならないと思っています。

●司会者：最後に一言お願いします。

金：先ほどお話ししましたように、私は2003年に初めて祖国韓国に来ることができました。しかし、李明博政権、朴槿恵政権の時代になって再び韓国に来られなくなりました。それがキャンドル革命の力によって今再びこうして皆さんと貴重な時間を共にすることができるようになりました。この国の民主主義のために懸命に生きてこられた国内同胞の皆さんに心から感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。そして最後に、在日同胞に対する深い愛情と、祖国統一に対する情熱で、多くの人々に希望と勇気を与える映画『私はチョソンサムです』を作ってくれた金哲民監督に、心から敬意と感謝の気持ちを伝えたいと思います。金哲民監督、本当にありがとう。



映画「私はチョソンサムです」ポスター

●広島、神奈川、京都で「韓国大統領選挙を考える集い」を開催



宋世一委員長の講演（広島）

12月17日、広島市まちづくり市民交流プラザで「2022年 韓国大統領選挙を考える広島の集い」が韓統連広島本部の主催で開催された。

郭文錡代表委員は主催者挨拶で「2021年は世界各国で選挙が行われてきた。世界情勢が変化していく中で、2022年韓国大統領選挙は特に注目されている。私たちは民主化を推進する韓国の政権をつくらなければならない」と語った。

続いて、宋世一委員長が「韓国大統領選挙と朝鮮半島情勢」をテーマに講演。朝鮮半島からの視点で分析すれば、米国は対中国・対ロシア・対朝鮮への敵視政策を継続していると指摘。世界中の同盟国との軍事的つながりを強化しており、朝鮮半島の統一

のためには、米国の対朝鮮敵視政策の中止と、南北の和解と協力が不可欠であると指摘。「2022年の韓国大統領選挙で生まれる次期政権は、自主的民主政府を展望しながら、積弊清算と平和・統一を実現していく民主政府であることが重要だ」と強調した。

閉会挨拶で朴隆宏副代表委員は分断を利益にする日本の政策を糾弾し、韓日民衆連帯の強化による、自主統一情勢の高揚を訴えた。

また、12月18日には神奈川本部がサンピアンかわさきで「韓国大統領選挙を考える神奈川の集い」を開催。文世賢神奈川本部代表委員が主催者挨拶し、李俊一総務部長が講演。韓国大統領選挙の歴史を振り返りながら、今後の展望を語った。19日には韓青京都府本部が「韓国大統領選挙を考える京都の集い」を下京青少年活動センターで開催。張敦悻韓青京都府本部委員長代行が主催者挨拶し、李総務部長が講演。韓成祐韓青中央委員長が在外選挙の登録・投票について解説した後、李承熙韓青京都府本部監査が閉会挨拶した。

행사예정 行事予定

1月

映画「私はチョソンサラムです」上映会(広島)

日時: 1月16日(日) 午後1時30分開始 場所: 広島市西区民文化センターホール

内容: 映画上映、出演者をまじえてのトークイベント

主催: 同実行委員会 連絡先: 090-7540-0332

韓国大統領選挙を考える東海の集い(東海)

日時: 1月23日(日) 午前11時開始 場所: mg四日市4階

内容: 講演「韓国大統領選挙と朝鮮半島情勢」、解説「候補者たちの素顔と選挙公約」、在日同胞の登録・投票案内

主催: 韓統連三重本部・韓統連愛知本部 連絡先: 080-3281-5413

※終了後、午後2時から成人祝賀会、新年会を開催 場所: カフェレストランLANA I

簡単ピザ作り会(大阪)

日時: 1月23日(日) 午前10時～午後2時 場所: 東成区民センター調理実習室

内容: ピザ手作り体験 参加費: 1,500円 持ち物: エプロン、ハンドタオル

主催: 韓統連大阪本部 連絡先: 090-3822-5723 (崔)

2月

2022年韓国大統領選挙を考える集い(大阪)

日時: 2月20日(日) 午後2時開始 場所: KCC会館

内容: 1部 情勢講演 2部 在日各界人士によるパネルディスカッション

参加費: 一般800円 青年学生 500円

主催: 韓統連大阪本部 連絡先: 06-6711-6377